第１１５回長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２７年５月１１日提出）

１．題　目：　平成２６年度ＦＤ・ＳＤスプリングワークショップ
「基礎力テスト（ＰＲＯＧ）報告会」

２．日　時：　平成２７年 ２月１６日（月）１６：００ ～ １８：００

３．場　所：　第２会議室（事務局別棟３階）

４．主　催：　教務委員会
企画・実施：　評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：　全教職員（非常勤含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　○　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義
各学部１年生と３年生を対象に平成２６年度に実施した基礎力テスト（ＰＲＯＧ）の分析結果を報告する。全体傾向とともに学部毎の特徴や全学モジュールテーマ毎の比較等を踏まえて，本学のジェネリックスキルの状況と今後の教養教育の課題を整理する。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】　株式会社リアセック　代表取締役ＣＥＯ　松村直樹氏

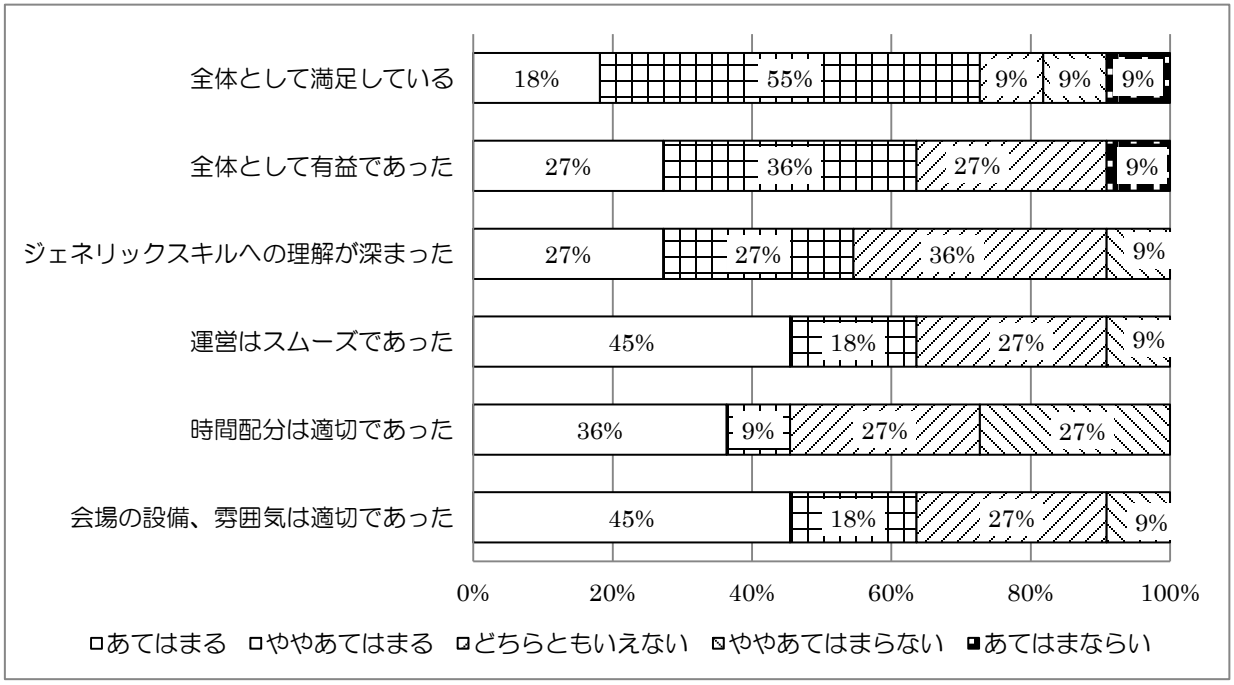
９．参加者：　１４名（受講証発行対象者：１２名（途中退出者２名を除く））
（内訳）

所　　属	人数
教育学部	2
経済学部	2
医歯薬学総合研究科(保系)	1

医歯薬学総合研究科（歯系）	1
工学研究科	2
水産・環境科学総合研究科（環境）	1
水産・環境科学総合研究科（水産）	1
大学教育イノベーションセンター	3
学生支援部	1
計	14

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価



（回答者：１１名）

●今回参加なさって、何か疑問点や感想、ご意見などがありましたら、ご記入下さい。

- 前回も同様の感想をもったが、結果の解釈であれば資料をもらうだけで十分。この結果をどのように活かしていくことができるのか、不足する能力の向上にはどのような教育が有効なのかという話が欲しい。
- 一般学生や院生でもオブザーバー（参観）として聴けたらよいと思いました。生涯学習社会に、夜間主（社会人・高齢者）学生にもジェネリックスキルを測る意義はあるのではないか。
- 学部毎に分科会を設けてはどうでしょうか。
- 話の時間をもう少し縮められると良かった。2/3 くらいの時間で十分ではなかった

か。

- 解説後の質問・応答が非常にためになった。
- スライド 62 の説明のときのように、学部ごとに前回との比較、どの能力があがって、あるいは下がっているか、その理由の推測（解釈）をしていってもらった方が、イメージがつかみやすいだろうと感じました。学部横断的に全ての学部の状況に関心をもっている人はおそらく少ないと思われるので。同じような話を何回もされているように感じてしまいました。このデータをどのように利用していったらよいのかが知りたいところだろうと思います。
- ご報告をオリエンテーション等で活かして学生に説明したい。
- 参加者が少ない。
- リテラシー・コンピテンシーともに１年次より３年次のほうが低くなっているとすると、モジュール科目で行っているアクティブラーニングの効果は、何処で表出すると考えられるのであろうか？

●内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入下さい。

- 報告書のファイルをすべての教職員が読めるようにしたほうがよいと思います。
- 運営面での問題はとくに感じませんでした。時間配分も運営面のことであれば、少し長く感じてしまいました。

●今後、FD・SD のテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。

- 教職員がどのような研修を受けているかを一般学生にも知ってもらうとよいと思います。聴講ではなくファイルの閲覧のみでもよい。
- ＰＲＯＧのデータを分析して、どうすればいいのか、というところまで考える（あるいはそれを参加者で議論する）ＦＤがあればいいなと思いました。川越先生が話された学生調査と絡めた分析は興味があります。

（２） 総　括

まず、株式会社 リアセックの松村社長より、今年度の本学学生のＰＲＯＧ受験結果と平成２４年度に１年次だった同一学生集団との比較分析の結果が報告された。その後、質疑応答の中で各部局の先生方がもつ学生の印象とＰＲＯＧの結果との解釈について議論をするという時間を設けた。

アンケートの結果は、全体的に肯定的な意見が多かった。その中でも、今回の結果をオリエンテーション等で学生に説明したいや、すべての教職員、学生が閲覧できるようにした方が良いなどの意見が複数、見受けられた。さらに、今回の結果をどのように活かしていくことができるのか、あるいは、不足する能力の向上にはどのような教育が有効なのかという具体的な話が欲しいという意見もあった。教務委員会のあとに時間を設定しているが、実際には参加者が少ないことから、今後は、学部毎に分科会を設けて具体的に議論をしていく必要性を感じた。

（文責：大学教育イノベーションセンター　川越明日香）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１１５回長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２７年５月１１日提出）

１．題　目：　平成２６年度ＦＤ・ＳＤスプリングワークショップ
「モジュール・フォーラムー教員調査・学生評価の総括ー」

２．日　時：　平成２７年３月１６日（月）１６：００ ～ １８：００

３．場　所：　第２会議室（事務局別棟３階）

４．主　催：　教務委員会
企画・実施：　評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：　全教職員（非常勤含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　○　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義
モジュール科目担当者への総括アンケートおよび学生による授業評価の結果をもとに、各モジュールでの工夫点と課題を共有し、今後の改善方向を検討する。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
① 今期分のデータ報告（講師：　大学教育イノベーションセンター　川越 明日香　助教）
平成 26 年度後期開講科目を対象に、学生による授業評価、教員アンケートの集計結果を報告する。

② 2 つのデータから見える全学モジュール科目の成果と課題
（講師：　松坂 誠應　理事（教学担当））
平成 25 年度前期後期、平成 26 年度前期科目を対象に、学生による授業評価と教員アンケートの分析等を報告する。

③ 総合討論（質疑応答を含む）

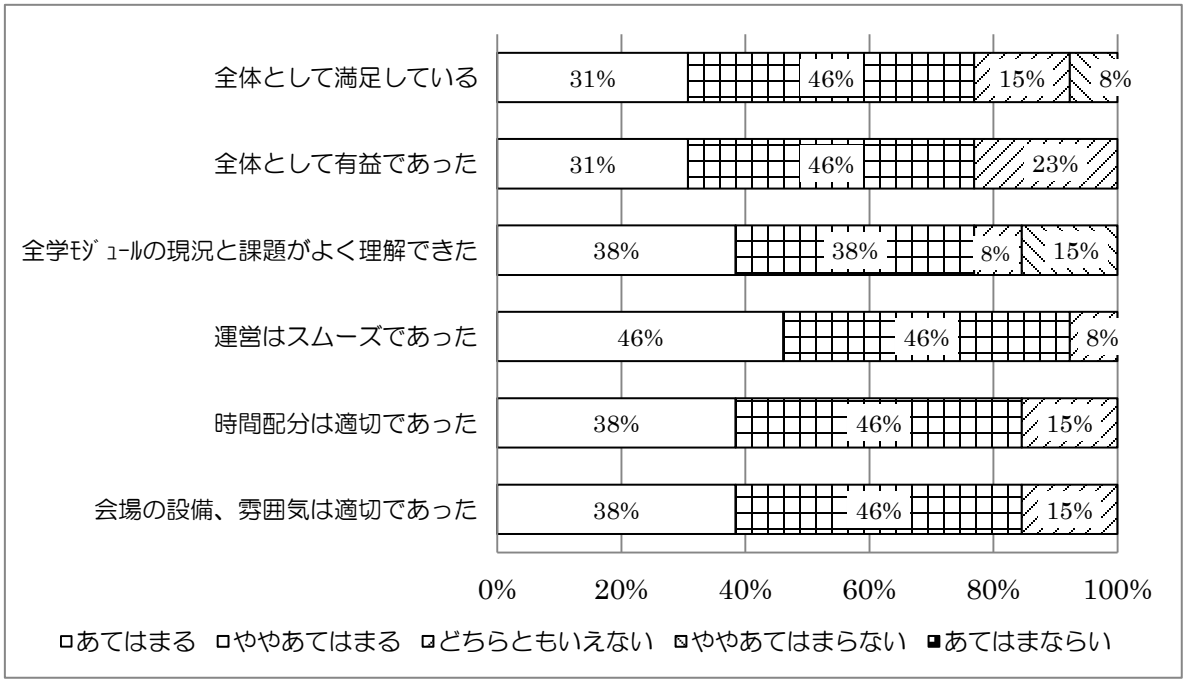
９．参加者：　１４名（受講証発行対象者：１４名）

（内訳）

所　　属	人数
教育学部	1
経済学部	3
医歯薬学総合研究科	1
医歯薬学総合研究科（保系）	2
医歯薬学総合研究科（歯系）	1
工学研究科	1
水産・環境科学総合研究科（環境）	2
大学教育イノベーションセンター	1
言語教育研究センター	1
地域教育連携・支援センター	1
計	14

１０．実施したＦＤの成果等

（１）　参加者からの評価



（回答者：１３名）

●今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- 授業担当者が変わると学生の「総合満足度」やアンケート項目「学生を参加させる工夫」の伸び幅に違いが出ることに興味を覚えた。学部教員に伝えたい。クラスあたりの受講者数が少ないとアクティブ・ラーニングの満足度が高いというのは実感的に同意できる。「授業公開」の割合が少しずつ減少している点は気になった。少しずつ依頼を細めに行うしかないように思った。
- 全学モジュールの課題が、まだまだ多く、かつ解決しづらいものが多いと感じた。
- 講師のプレゼン、質疑応答もよく理解できた。参加してよかったと思う。
- 学生満足度の高い科目では、ＡＬに関して具体的にどのような取組が行われているのか、どのような手法が高い満足度を得られるか示して頂けると有益かと思います。
- The forum topic made me realize the positive and negative impacts which could reflect upon when introducing the approach in the engineering courses.
- モジュール科目の評価としては興味深くきかせて頂きました。(課題の多さとの関連なし、連携の多さとの関連なし）参加者数が少なすぎると思います。教養教育にかかわる教員が多く集まって discussion した方が良いと思います。少なくとも教養教育実施専門部会委員は参加した方が良いかと思います。
- 実際に担当していて考えていたことが、示されていました。達成感への影響において、学生の反応とありましたが、対策について、ＦＤなどをして欲しい。興味がない学生に対して、教えることが大変です。モジュールの担当をするにあたり、悩みながら、良い講義を考えていきたいと思いました。
- モジュールを担当する中でついやりっぱなしになりがちだが、こうして分析結果を伺うと次年度にいかせるのでありがたい。他のモジュールを担当する先生方の意見、お考えを知るよい機会になりました。ありがとうございました。
- 赴任したばかりですが参考と勉強になりました。

●今後、FD のテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。

- 本日のようなモジュールの説明会を、教員に広く実施して頂ける方法をご検討いただき実施して頂くと有難いです。（可能ならば、ということで結構です。）
- インストラクショナルデザインたのしみにしています。

（2） 総　括

【第 1 部】川越先生より、モジュール I およびモジュール II に対する学生による授業評価の概要、集計結果の説明がなされた。それに続いて、担当教員へのアンケートの集計結果についても説明された。

<u>発表の概要</u>

・受講者 1680 人の約半数からの回答が得られた。
・設問は共通 7 項目に加え、自分は、授業中集中して取り組むことができた、自分は、授業を通して自主的に探求する力が高まった、自分は、授業を通して批判的に考える力が高まった、自分は、授業を通して自己表現力が高まった、という自分は、で始まる自己評価項目が追加になっている点が注目点である。
・モジュール I の評価の平均に対し、モジュール II の評価の平均がやや高い傾向があり、評価が 4.0 未満の項目もモジュール II で減少している。モジュール II で評価が 4.0 未満であった項目には、自分は、で始まる自己評価項目が多く含まれていた。
・同じ授業担当者が 3 年間担当した科目では、授業評価が年を追って上昇している傾向がモジュール I でもモジュール II でも見られ､授業担当者の改善努力の結果と受け取れる。
・テーマ責任者に対するアンケート結果についても説明され、連絡調整を直接会って行う割合と、公開授業の参観率がともに年を追うごとに低下している点が気になった。
・科目責任者に対するアンケート結果では、授業で毎回課題を出す割合が年を追って増加していた。授業に対する負担感は、半数以上の科目責任者が有しているようであった。

【第 2 部】松坂理事より、教養教育で推進しているアクティブラーニングにおけるファリシテータの関わり、教員が感じる授業のできの良し悪しに関するアンケート結果と学生による授業評価結果との関連について考察がなされた。

<u>発表の概要</u>

・ファリシテータの参画が多い授業で学生の評価が有意に高かった。
・教員が十分にうまくいったと感じた授業に対する学生の評価は、そうでない授業に対する評価より有意に高かった。
・十分にうまく行ったと担当教員が感じた授業は、そうでない授業に比べて有意に受講者数が少なく、約 40 人が最も授業がやりやすいのではないかと考えられた。

【総合討論】

松坂理事の発表終了後に総合討論が行われ、下記のような概要であった。

・ファシリテータの参画とはどのようなものを含んでいるのか。授業によって幅があるようで、さらなるデータ収集と解析が必要なのではないか。
・モジュール科目の実施による教育効果をどのように評価すればよいのか。評価が難しいのではないか。
・小グループに分けた授業を行う機会が多いが、カリキュラムに融通が利かず、専門科目

が同一である同一学部同士でグループをつくらざるを得ない状況がある。できれば学部混在のグループを構成したいが、現状では難しい。

・このようなアンケート結果を活用してモジュール科目の改善に役立てようという方針は理解できるが、それ以前に担当教員の資質が最も授業評価に影響を及ぼしている可能性がある。全教員に機械的に担当させるには無理があるのかもしれない。教員側の資質の向上、モジュール科目に対する理解を深める努力が何よりも重要なのではないか。

その他様々な議論があり、予定された 2 時間が経過し、終了となった。参加者が少なかったのが残念であったが、様々な意見が出て今後の参考になった。

（文責：池田　通）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１１５回長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２７年５月１１日提出）

１．題　目：　平成２６年度ＦＤ・ＳＤスプリングワークショップ
「インストラクショナルデザイナーの授業支援と授業の変化」

２．日　時：　平成 ２７年 ３月 ２０日（金）１０：００ ～ １２：００

３．場　所：　第５会議室（教育学部２階）

４．主　催：　教務委員会
企画・実施：　評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：　全教職員（非常勤含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義
授業改善を行うためには、ただ単に技法をまねるだけではなく的確に設計された授業計画が必要です。その計画の支援を行うインストラクショナルデザイナーの役割や授業設計のポイントなどについて学びます。

８．プログラム構成［題目・担当講師］

【講師】　長崎県立大学　　井ノ上　憲司　特任助教

【内容】
① インストラクショナルデザインに関する講習
② 講習を受けての自由な意見交換

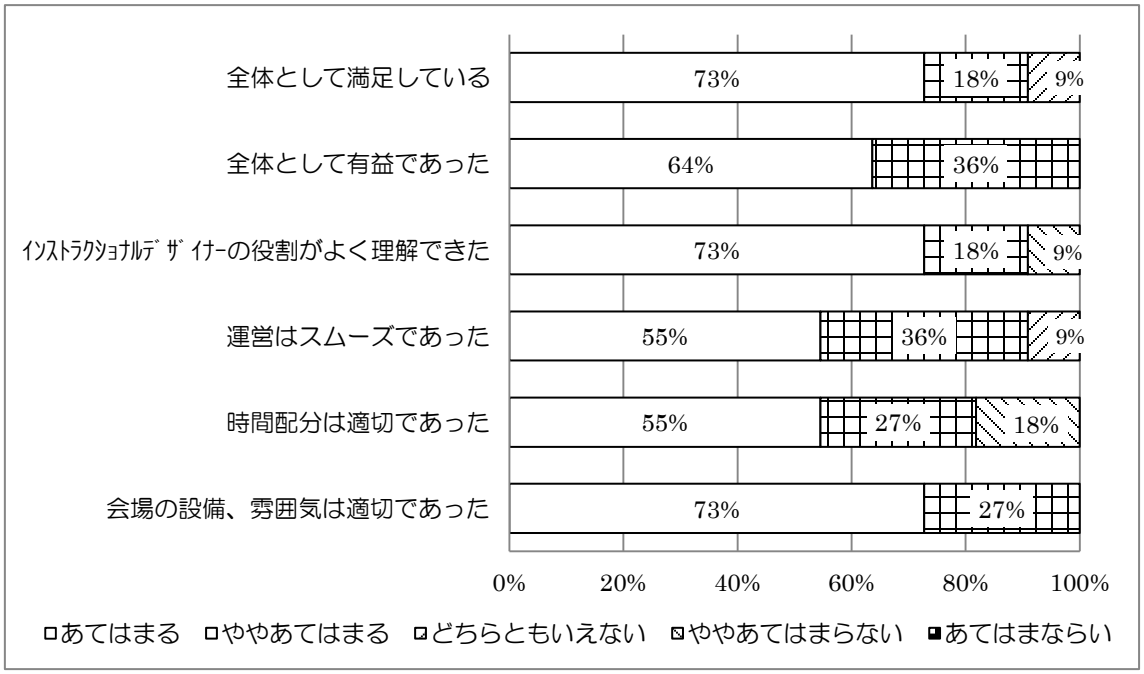
９．参加者：　１２名（受講証発行対象者：１２名）

（内訳）

所　　属	人数
教育学部	2
経済学部	2
医歯薬学総合研究科（歯系）	1
工学研究科	1
水産・環境科学総合研究科（環境）	1
病院	1
ICT 基盤センター	1
大学教育イノベーションセンター	2
地域教育連携・支援センター	1
計	12

１０．実施したＦＤの成果等

（１）　参加者からの評価



（回答者：１１名）

●今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- 自分が行っている講義のやり方は間違いではないことがわかった。
- 講義の工夫をしたいと思いました。さらなる改善を目的として、ぜひデザイナーの方の意見を聞きたいと思いました。（来春から相談できるのかな？）
- ＩＤとはどのような考え方なのか、一定程度理解できたように思います。部分的にでも、実践できそうな所から、自分の授業に適用したいと思います。
- 非常に勉強になりました。
- 学部でも同じようなことを扱っているので、刺激的な内容でした。ありがとうございました。
- 是非活用したいと思います。
- インストラクショナルデザインについてお話を伺ったのは初めてでしたので、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- いままで漠然として感じていたポイントを明確な形で形式知化されており有意義でした。
- インストラクショナルデザインについてその言葉に興味があったので、受講してみてその基本的知識を配布資料を通じて入手できたことは収穫でした。ですが、講師の講話の仕方がへたくそで話がよく聞き取れないし、ヘラヘラ笑ってばかりいるのが気になって聴講に集中できなかった。同じ講義題目であれば、大阪教育大の寺嶋先生の方がずっと上手に話をしてくれることでしょう。今回の内容だけでは、実際にモジュール科目の講義の改善にインストラクショナルデザイナーが役に立つとは正直いって思えなかった。

●内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入下さい。

- 90 分位が良い。
- ＩＤ活用前後の授業設計についてはわかったが、効果があったかどうかについても教示いただきたかった。
- 教えていただいた中身はとても満足です。テーマ選定が良かったのだと思います。あわせて、誰に習うか、講師選定も重要だと感じました。
- 今回のＦＤを受講した方には、ある参加者が語っていたように授業改善のためのＦＤに前向きな方ばかりであったと思います。そういう上級者に対して今回の講師は物足りません。講義の初めに受講者が何をどこまで期待して教室にやって来たかを聞き取ることが必要だと思います。インストラクショナルデザイナーが講師であれば、その作業をしてから講義するくらいの力量があるはずです。

●今後、FD・SD のテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。

- 「教育設計考」・・・自分の教科の悩みをもちよりワークショップにより解決に向かわせる。
- ＩＤ活用によって講義の構成がどのように変化したか、その結果、学生の理解度、満足度等がどのように改善したか等についての事例報告会があれば有益かと思います。
- 4 月以降、実際にいらっしゃるデザイナーの先生によるＦＤをお聞きしてみたいです。
- 今回、教養教育のモジュール科目の質の向上のために４月からインストラクショナルデザイナーを２人雇うという話を聞き、本学が教養教育にはどんどん資金を回すが・・・という側面を知り、ちょっとがっかりしました。今、本学がしなければならないことは、ＬＡＣＳやポートフォリオなど近年整備されたシステムをいかに有効に使って本学の全体の講義の質の向上を図るか、ではないでしょうか。そのためにはそれ用のガイドブック作りがまず考えられます。ある理事がＬＡＣＳには多額の費用がかかっていると話をされていました。ですから、教養教育のてこ入れだけの問題ではないと思います。

（2） 総　括

本 FD は、大学教育再生加速プログラム（AP）において、全学モジュールにおけるアクティブ・ラーニングを一層充実させる目的で平成 27 年度より採用予定のインストラクショナルデザイナーの役割に関する理解を深めるとともに適切な授業設計とは何かを考えることを目的としている。

講師の先生より、「学習目標達成のための授業改善策について意見を求められた場合、どのようなアドバイスを与えるか」といった投げかけがあり、これに対し参加者全員が発言した。また、インストラクショナルデザイナーの前提について、質問、対話という形式で説明が順次行われた。このように講師・参加者でインターアクティブな FD であったこと、また、具体的事例のみならず授業設計の論点、理論等も解説されたこと等から、非常に有意義な内容であった。

参加者からの評価結果は、全体として満足しているかとの設問に対し、91%が「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答している。全体として有益であったのかとの設問に対し、全員（100%）が「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答している。インストラクショナルデザイナーの役割がよく理解できたかとの設問に対し、91%が「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答している。このように良好な反応が大多数を占めており非常に効果的な FD であったと言える。

自由記述のアンケートでは、「非常に勉強になった」、「有意義であった」、「授業・講義を工夫したい」等の肯定的な感想が示される一方で、出席者が何を期待しているか確認する必要がある、お互いに授業設計を持ち寄り議論するワークショップを設けて欲しい、インストラクショナルデザイナー活用による効果（授業がどの様に変化し、学生の理解度・満足度がいかに改善したか等）についての事例報告会を設けて欲しい、等の意見も出されていた。インストラクショナルデザイナーは、教員自身が問題意識を持ち授業を改善したいと考えて初めて効果がある。この意味で多くの教員が関心を持つべき内容であるが、参加者が少なかったのは非常に残念であり、全体的に教員の授業設計に関する関心を高め参加を促す工夫が必要であるとともに教員の関心の度合いに応じたきめ細かな FD の開催が今後の課題であると考えられる。

（文責：谷口　眞司）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１１５回長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２７年５月１１日提出）

１．題　目：平成２６年度ＦＤ・ＳＤスプリングワークショップ
「アクティブラーニング事例報告 －後期実施モジュール科目より－」

２．日　時：　平成 ２７年 ３月 ２０日（金）　１３：００ ～ １５：００

３．場　所：　第５会議室（教育学部２階）

４．主　催：教務委員会
企画・実施：評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：全教職員（非常勤含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　○　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義
全学モジュール科目では、アクティブラーニングを積極的に導入する試みが進められている。この事例報告では全学モジュール科目担当者から今年度後期の授業経験を紹介してもらった。苦労した点・失敗した点も含めて、互いにざっくばらんに実践交流を行うことで、来年度の授業に向けて工夫を考え合う機会にすることができた。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【内容】
① モジュール後期科目担当者からの事例報告
② 事例報告を受けての自由な意見交換

【科目名と報告者】
A.　自然系のモジュール
「暮らしの中の化学」　工学研究科　村上　裕人　准教授
「情報社会の安全と安心」　ＩＣＴ基盤センター　上繁　義史　准教授

B. 社会系のモジュール

「経済活動と社会」　　経済学部　　藤田　渉　教授

「コミュニケーション基礎実践」　　大学教育イノベーションセンター
當山　明華　助教

「音楽と表現」　　教育学部　　西田　治　准教授

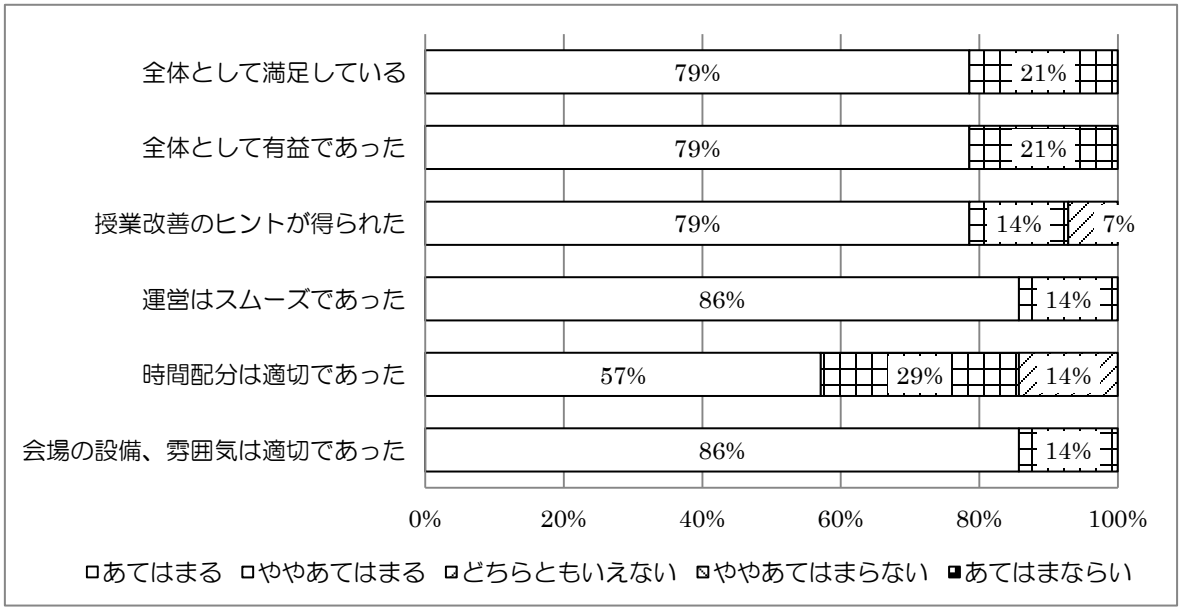
９．参加者：　１６名（受講証発行対象者：１５名（途中入出者１名を除く））

（内訳）

所　　属	人数
多文化社会学部	4
教育学部	1
経済学部	1
医歯薬学総合研究科(薬系)	3
医歯薬学総合研究科　地域包括ケア教育センター	1
工学研究科	2
国際健康開発研究科	1
ICT 基盤センター	1
大学教育イノベーションセンター	2
計	16

１０．実施したＦＤの成果等

（１）　参加者からの評価



（回答者：１４名）

●今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

・ 授業の実例報告で大変参考になりました。
・ 自分の授業改善ができるかは別ですが、興味深い授業方法が聞けて良かった。講師の選択が良かったと思います。
・ アクティブラーニングと成人教育を融合させた授業ができればと思います。(ロールプレイ、ＴＢＬなど!?)・評価の仕方等、勉強になりました。
・ 窓から採光されるよい場所だった。
・ 学生とともに何かを作り上げていくというヒントを得ました。
・ 多彩な授業ケース報告があり、参考となるアイディアが多かった。
・ 能動的学習への導くためにという視点からのご発表にしていただけるとありがたいです。準備がたいへんだとは思いますが。
・ モジュールと各学部の専門科目のつながりが大事でそれをテーマとする。定期的にお願いします。

●内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたら、ご記入下さい。

・ ＬＡＣＳで共通利用可能な資料（データベース）をアップすることが望ましい。
・ 場合によって、理・工/社会・人文・科学を分けて設定するのもいいかもしれません。
・ 盛りたくさんで時間的にタイトで、もう少し深められたらと思う。
・ どのような講義を行うのかをもう少し詳しくメール等で連絡があれば良い。予想よりもためになる発表が多かった。
・ もう 30 分ふやして disucussion time をふやす。

（２） 総　括

全学モジュール科目でアクティブラーニングを積極的に導入されている 5 人の教員から今年度後期の授業経験を紹介していただいた。5 人のアクティブラーニング実例は分野的にもアプローチ的にも多彩であったが、苦労、失敗した点も含め、参考となるところが多かった。さらに、学生とともに何かを作り上げていくという示唆や、授業改善に対する新たな意欲を得たという意見もあった。一方で、学生を能動的学習へと導くために、という視点からの報告を期待する意見もあった。どの事例報告も興味深かったが、盛り沢山で時間的にはタイトになった。意見交換を通した実践交流をさらに深めるためには、今回のアンケートで提案された、事前に各事例の紹介をメール等で行っておくことや、昨年度実施されたように理系と文系に分けて行うことを検討してもよいかもしれない。全体的には、来年度の授業に向けて、経験を共有し、工夫を考え合う良い機会となった。

（文責：神谷 保彦）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077